



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

枚方学舎で初の入学式



2~3面に関連記事

4月5日(金)、枚方学舎で初めてとなる入学式が挙行されました。式典後は正門前で写真撮影し、医師を目指す112名の学生生活がスタートしました。

CONTENTS

平成25年度入学式	2	病院	16
法人 退任の挨拶	5	附属看護専門学校	19
就任の挨拶	6	卒後臨床研修センター	21
大学 第59回医学部卒業式	7	同窓会	22
平成26年度一般入試が変わります	10	メディア情報	23
新しいキャンパスライフがスタート	15	お知らせ	24

平成25年度 入学式を挙行

4月5日(金)午後1時30分から、枚方学舎加多乃講堂で大学の「平成25年度入学式」が挙行され、112名が入学しました。今年4月に開設した枚方学舎で初めてとなる入学式で、山下敏夫理事長・学長をはじめとした教職員のほか、来賓、保護者の皆様が多数ご臨席されました。

本学の混声合唱団「コールクライス」による学歌とお祝いの歌の斉唱に続いて新入生全員の名前が読み上げられた後、山下理事長・学長は告辞で、今年度からの新学舎オープンやカリキュラム改変など、新たにスタートする本学の教育、研究、診療についてふれ「今年の入学式は特別な意味があります」と強調し、さらに「リサーチマインドの大切さ」「クラブ活動の奨励」「母校愛」などについて話し「実り多い学生生活を過ごして下さい」と激励しました。この後、新入生を代表して中田匡則さんが宣誓書を読み上げ、在学生代表の西尾海さん(2学年)が歓迎の言葉を贈りました。

この日は快晴で、本学の新たな第一歩にふさわしい“入学式日和”となりました。また、満開の桜が新入生を激励し、初めて登校した新入生たちは正門付近で記念撮影するなど、爽やかな笑顔を浮かべていました。一方、式典に先立って、保護者の待合場所となったオープンラウンジでは茶道部の学生がお茶でもてなしたほか、枚方学舎での初の入学式を記念して50年前に入学した卒業生(37回生)5名を招待しました。



加多乃講堂で挙行された枚方学舎での入学式

学 長 告 辞

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日男子66名、女子46名、計112名の皆さんを迎えて、平成25年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。ご臨席をいただきました大阪医科大学竹中洋学長をはじめご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。見事に難関を突破されての合格であり、ご本人の努力と、その彼等の勉強と生活の支援を続けてこられたご家族や関係の方々に心からお祝いを申し上げます。

さて本日の入学式は新入生の皆さんにとり、また本学にとっても特別な意味があることをまず強調したいと思います。その理由をこれから申し上げます。

まず第一は新学舎開設後の初めての入学式であり、新入生は第1学年から新学舎で学ぶ最初の学年と言えます。実はこの新学舎は5日前の4月1日にオープンしたばかりです。新学舎について、まず本学の歴史に触れながら、オープンに至る経過、そして新学舎の施設、設備の概略について順次お話しします。

本学は1928年に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、一時大阪女子医科大学と名称の変更はありましたが、1954年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。1960年には医学進学課程が設置されて、現在の6年課程の教育が行われるようになりました。卒業生総数は7,700名を数え、創立85周年を迎えたという歴

史ある学校です。

その長い歴史の中で、諸施設の新陳代謝を行いながら発展してまいりましたが、今まで医科大学の使命である教育、研究、診療を行う主たる施設が地理的に離れていました。今回、新学舎開設により初めて「全学年が学ぶキャンパス」、「全ての研究施設」、「附属病院(本院)」が同じ場所で揃い、かつそれが空中通路で直結することになり、「医科大学としての真の学園」がここに誕生することになりました。私共の長年の夢が実現したわけです。

この新学舎は特急の止まる京阪電鉄枚方市駅から徒歩約3分、かつ旧1号線に面するという交通至便、淀川と天野川に囲まれた環境良好かつ甲子園球場の2倍という広い敷地に建つ、延床面積4万2千平米という大きな建物です。コンセプトを「グリーン&エコ」とした如く、学舎の周りに木々が植えられ、特に芝生が敷きつめられた中庭から、学園の森、淀川への緑の絨毯が続き、遠景に高槻の山々が臨めます。

新学舎は中央棟、南棟、北棟の3つの棟が「コの字状」に配置され、大きな中庭空間を有します。全ての棟の1~3階を講義室、実習室、講堂、図書館、シミュレーションセンター、学生用ラウンジ、多数の



チュートリアルルームと自習室、食堂、事務局など学生の教育施設を中心に配置されています。3階で附属病院と直結します。4階より上は、南棟に3階の食堂と連結するカフェテリアと屋上庭園、中央棟では、臨床と基礎の全講座の研究室及び居室が主として占め、その他に同窓会部門、法人・管理部門などを含んでいます。また、北棟では近代的な動物センター、総合研究施設など中央研究施設が主となっています。恐らくこれらの諸施設は現在の日本の医科大学の中でも有数の教育研究施設ではないかと思えます。

さて、最高の器は整いました。次は中味の充実です。第1学年から第6学年までが同じ学舎で学べるようになったため、真の6年一貫教育が行えます。そこで、カリキュラムを抜本的に変更し、現時点で理想的と考えられるカリキュラムを策定しました。この新しいカリキュラムで学ぶ最初の学年が新入生の皆さんということになります。さらにご存知のとおり、本学では受験機会を増し、多くの受験者の中から優秀な学生を集め、本学のレベルのさらなる向上を図るために今年度から入試改革を行いました。具体的にはセンター試験の導入、東京会場の新設、さらに今年度から学納金を下げました。その結果、受験者数は昨年度まで1,700名前後であったのが、今年度は3,000名を超えました。本日ここにおられる新入生の皆さんはこのハードな競争を勝ち抜いてこられた、まさにエリート集団ということになります。

もう一つの変化は、昨年末に本学に研究医養成枠で2名の入学定員増が西日本の私立医大では初めて認められました。これは本学の研究力と研究に取り組む姿勢が評価されたためと思えます。これを機会に研究についてお話しします。皆さんは「病気で悩んでいる人を一人でも救いたい」という気持ちで医学の世界に入ろうと思われたことと思えます。そして皆さんのほとんどは患者さんを直接治療する臨床医になられることと思えます。ただ1つ大切なことは、病気を根本的に治すためには、基礎研究が極めて大切だということです。

昨年は暗いニュースが多かった中で、唯一の光明は山中伸弥先生がノーベル医学・生理学賞を受賞されたことだと思います。山中先生は医師としてのスタートは整形外科という臨床医からでした。しかし、その日々の診療の過程で基礎研究の重要性に気付かれ、それが勿論ご本人の才能もありましたが、iPS細胞という世紀の発明につながったわけです。皆さんは是非学生のうちからリサーチマインドを持たれ、我と思わん者は、本学の研究医枠に挑戦してください。なお、山中先生は本学の客員教授であり、

かつ本学に縁の深い先生で、5年前から本学の第1学年「医学概論」で講義をいただいています。皆さんも約1か月後の5月16日にその授業を受けられます。成り立てのほやほやの医学生である皆さんが直接ノーベル賞学者の山中先生の講義を受けられることは大変贅沢なことと自覚し、また楽しみにしてください。

以上、本年に入学される皆さんは特別な意味を持った方々であることを縷々説明いたしました。最後に一つ一般的なことをお話しします。大学というところは皆さんの今までのさらにこれからの長い人生の中で、比較的自分の時間を自由にかつ有効に使うことができる場所です。この時期は学問のみでなく、持っている才能や個性に磨きをかけ、さらに医師として将来要求される体力とコミュニケーション能力をつける絶好の時期です。本学にはたくさんのクラブ活動があります。新学舎にはテニスコートなどいくつかの運動施設はありますが、グラウンドや体育館は少し離れた牧野キャンパスにあります。本学ではクラブ活動支援のために授業の終わった夕刻に、ここ枚方学舎から牧野までスクールバスを出すことにしました。是非クラブに入り、その活動を通じて、これらの能力を獲得し、そして多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。ただ、医学部では6年間で学ぶ知識量は真に膨大なものですから、学生生活にメリハリをつけ、まず勉学に励むことを第一義に、次にその余暇をクラブ活動に励んでください。決して、その順序が逆にならないようお願いいたします。

本日の入学式が枚方新学舎での初めての入学式であることを記念し、50年前に本学に入学された皆さんのOBを本日ご招待しています。まさに医療界で重鎮としてご活躍の方々のご多忙の中を皆さんの入学にエールを送るために出席していただきました。新入生の皆さんそして本校は常にOBの母校愛によって見守られていることを銘記してください。

本日は、今年入学する皆さんが特別な意味のある学生であること、リサーチマインドを持つように、そしてクラブ活動のすすめ、母校愛などを中心にお話しいたしました。新しい入試制度で入学し、新しい学舎とカリキュラムで学ぶ皆さんは関西医科大学を変え、さらなるその発展に貢献し、そして日本の医学を背負ってくれるものと信じます。皆さんを心から歓迎し、ご活躍を期待いたします。

皆さんが健康に留意され、関西医大人として誇りを持って、実り多い学生生活を送られますよう祈り、私の告辞といたします。本日はおめでとうございます。

法人

33名が入学 平成25年度大学院入学式

平成25年度大学院入学式が4月8日(月)午後3時から、枚方学舎4階中会議室にて、山下敏夫理事長・学長、中邨智之大学院教務部長をはじめ指導教授臨席のもと挙行され、33名が入学しました。山下理事長・学長から「大学院生は本学の研究のエンジンであり期待しています。また新学舎開設後初という記念すべき入学生です」との挨拶があり、続いて中邨大学院教務部長から「臨床とは異なり、研究は常に人とは違う見方をすることが大切です」とのアドバイスがありました。



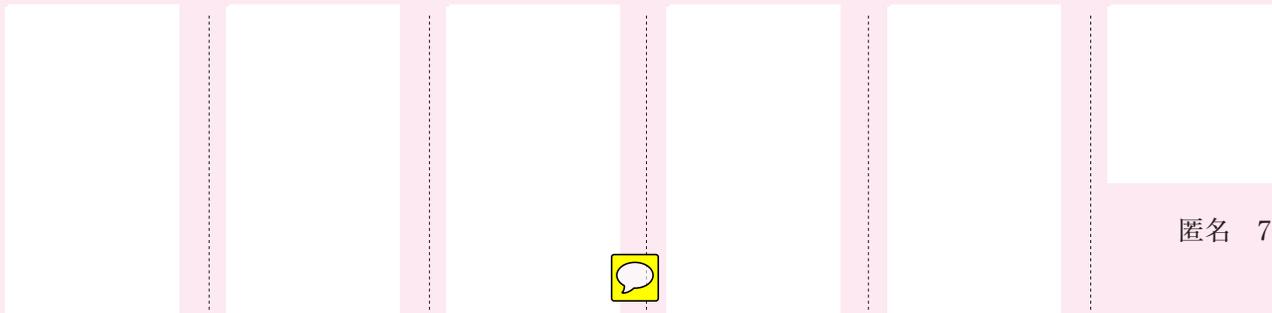
33名の大学院生が入学しました

寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成25年1月1日から平成25年3月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

なお、募集当初から平成25年3月31日までの寄付金累計額は8億3,863万3千円です。

<個人>



匿名 7件

<法人>



匿名 2件

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

2. 募集金額

1口10万円

1口未満でも申し受けます。

3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申度ください。寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書

・法人の場合：

(1) 特定公益増進法人申込書

(2) 受配者指定寄付金申込書

4. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会事務局

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

Tel：072-804-2146(直通)

Fax：072-804-2344

E-mail：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

法人

退任の挨拶

目指せ、医療の質のさらなる向上を

附属枚方病院 前病院長 今村 洋二



私は、附属枚方病院の開設、運営にあたり「イノベーション」と「チーム医療」の大切さを述べてきました。ここで言う「イノベーシ

ョン」とは、組織や社会の構造改革のことです。この「イノベーション」をすすめるにあたり、その組織の「Corporate Governance」(企業統治)と「Compliance」(法令順守)の仕組みが問われます。私は、健全な企業ガバナンスをすすめるためには、その組織のトップは、私利私欲に溺れることなく、物事の善悪の判断基準をしっかりと持ち、教養、品格、そしてカリスマ性を持ち、率先して物事をすすめて行く能力が必要と考え、実行してきました。また、正しいコンプライアンスをすすめるに、倫理の担当部署を設け、行動規範を作成し、担当役員、リーダーを任命し、内部通報制度の整備な

どをすすめてきました。さらに、迅速かつ正確な情報収集を行った後、第三者を交えた公正な判断を行い、当該チームを通して話し合いをすすめ、医療の質と安全の向上に役立たせる試みも行ってきました。

「チーム医療」については、医療関係者相互のコミュニケーション不足とチームワークの欠如が問題であり、結果的に、医療の質の低下、医療安全の低下の大きな要因となることを指摘し、きめの細かな現場の意見の収集や業務改善コンテストを企画し、実行してきました。

信用は「賽の河原で石を積む」のと同じで、毎日の地道な努力が大切です。いったん不祥事を起こせばその信用は一瞬にして崩れます。各部署がきちっとした責任を果たし、結果として、しっかりとした経営理念と確実な基礎の上に立った、質の良い、地道なあゆみを続ける品格のある病院であってください。

最後に、改めてお願いします。

「関西医大が君に何かをしてくれたかではなく、君が、今、関西医大に何をすべきかを常に考えてください」

◆1～3月の主な行事

日程	行事名	場所
1月4日	新年賀詞交換会	附属滝井病院

日程	行事名	場所
3月23日	枚方新学舎竣工式	枚方学舎

平成25年度一般職合同入職式開催

4月1日午前9時15分から平成25年度一般職合同入職式が枚方学舎加多乃講堂において、山下敏夫理事長・学長をはじめ附属3病院の病院長、事務部長、看護部長臨席のもと開催され、211名が入職しました。昨年度までは各部署で個別に行っていましたが、今年度から枚方学舎が開設し新入職員が一堂に会するにふさわしい場所も作られ、大学職員としての自覚を求める意味を込めて合同による開催となっています。

入職式では、山下理事長・学長から「本学の変遷や現状及び将来を見つめ、建学の精神を胸に大学職員としての意識を確認してほしい」との訓示があり、続いて、新入職者全員の氏名が呼ばれた後、附属枚方病院事務部経理課に配属の奥村朋代さんが代表して採用辞令を受け取りました。その後、附属枚方病院薬剤部に配属の松井侑子さんから答辞として「足元を固め、一日も早く責任ある仕事ができるように精一杯努力します」との決意が述べられました。



新入職者の社会人生活がスタートを切りました

法人

就任の挨拶

救急医学講座教授に就任して

救急医学講座 教授 鎌方 安行



このたび、関西医科大学救急医学講座の主任教授を拝命いたしました鎌方安行と申します。平成25年2月1日に着任いたしました。本学の救急医学科は昭和54年開設と歴史が古く、わが国の救急医学担当教室のなかでも際だった存在です。平成24年の講座化を経て、その初代担当教授として教室を主宰させていただくことはまことに光栄であるとともに、重責をひしひしと感じております。

私は1983年に筑波大学を卒業したのち、大阪大学医学部附属病院特殊救急部の一員となりました。一般外科の技術修練、臨床研究への従事、米国留学をへて、1995年に大阪大学に教員採用となり、以後は一貫して、救急医学の教育・臨床・研究に取り組んで参りました。この間、自らの所属する診療施設が、重症外傷など重篤な外因症例を中心として自己完結的に診療する特殊救急部から、脳卒中・心筋梗塞をはじめとする多数の重篤内因症例もふくめて幅広く診療する中央診療部門(救命救急センター)へと変貌してゆく過程を実体験し、社会に求められる高度救急医療がいかなるものであるかを学びました。救命センターでは、あらゆる年代の重症救急例を24時間受入れて、高度医療を提供しなければなりません。そのためには、救命救急医と院内各診療科の専門医が、個々の重症救急例の病状・病態に応じて、臨機応変に診療チームを形成することが重要です。前任地では医局長/副センター長として管理運営に携わり、院内各診療科との機動的な協力関係を得ながら、この課題を実現することができました。このような経験を活か

し、関西医科大学の叡智・技術を結集して、傷病の別を問わない優れた急性期医療を地域住民の皆さまに提供していきたいと考えております。

研究面では、自身のライフワークである重症救急症例の心・循環機能変化/酸素代謝異常に関する研究を発展させるとともに、実学の側面を極めて強く持つ救急医学の特性にあわせ、多彩な救急病態、災害、病院前など幅広い分野に寄与できるよう種々の研究に取り組んで参ります。また、私たちの施設が一層魅力ある救急専門医育成機関として機能できるよう、多彩な専門研修協力施設との連携を活かし、幅広いサブスペシャリティに対応できる救急医育成プログラムを提供していく方針です。

以上、簡単ではございますが、関西医科大学救急医学講座の新しい船出についてご紹介申し上げました。これからも、皆さまのご指導・ご鞭撻をいただけますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

一 略 歴 一

昭和58年 3月	筑波大学医学専門学群 卒業
昭和58年 7月	大阪大学医学部附属病院 研修医
昭和59年 7月	西宮市立中央病院 外科レジデント
昭和60年 7月	国立東静病院 外科レジデント
昭和63年 7月	大阪大学医学部 救急医学研究生
平成 2年 7月	大阪大学医学部附属病院 特殊救急部 医員
平成 3年10月	国保松戸市立病院 救急部 医長
平成 5年 9月	米国セントルイス大学 麻酔科学研究室 研究員
平成 7年 7月	大阪大学医学部救急医学 助手
平成20年 1月	大阪大学大学院医学系研究科救急医学 准教授
平成25年 2月	関西医科大学救急医学講座 主任教授

末梢血管外科診療教授に就任して

外科学講座 診療教授 駒井 宏好



平成25年2月1日、関西医科大学附属滝井病院に外科学講座末梢血管外科診療教授として着任いたしました駒井宏好と申します。私は和歌山県立医科大学を卒業後、心臓血管外科に中心に診療、研究を続けてまいりましたが、済生会和歌山病院勤務をきっかけに末梢血管を専門とするようになりました。その後、以前より血管外科では全国に名の知れた東京医科大学で5年間修練を行った後、縁あって本学に着任いたしました。昨今「ひとは血管とともに老いる」「足は動脈硬化の窓」などの言葉を聞くことが多くなりました。同じ長生きするならば自分の足で歩きながら有意義な生活を送るようにしたい、と思うのは人として当然の思いです。しかもごく微細な足の症状が動脈硬化の早期発見の糸口になることがあります。

近年足の血管病は一般市民の中でも話題となりマスコミでも取り上げられるほど脚光を浴びてきた領域である半面、まだまだ脈管専門家と言われる医療従事者が少ないのも現状です。そのような中、全国で7番目、西日本では初めての血管外科単独診療科がこの関西医科大学に誕生したことは画期的なことだと思っており、このご英断を下された関西医科大学に大いなる敬意を表したいと存じます。今後、関西医科大学末梢血管外科は血管外科を志す若者のめざす大学として、また関西地域の血管病を征圧する拠点病院としての役割を担うこととなり、私自身責任の重さをひしひしと感じる次第です。血管外科は大動脈、下肢動脈、静脈

などからだのあらゆるところに存在する血管の外科的治療、および保存的治療も担う科です。当然、他科の先生方および看護師や技師などコメディカルの方々との密な連携をもって治療に当たらなければ何もできません。

また、動脈硬化は一度の外科的治療で治療するものではありません。長年のリスクマネジメントが術後も欠かせないのは当然であり、そういう意味から地域の家庭医、市中病院一般医の方々との連携も欠かせない領域であります。病院、大学、地域の総力を結集して脈管疾患の治療にあたる、その拠点となるべき診療科を目指してまいりたいと思っております。診療のモットーはsafe, smart, speedyです。3年で学内に、6年で地域に、9年で全国に信頼される血管外科にしてまいりたいと思っております。関係各位のご支援、ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

一 略 歴 一

昭和60年 3月	和歌山県立医科大学卒業
昭和62年 5月	国立循環器病センター心臓血管外科レジデント
平成 2年10月	和歌山県立医科大学助手
平成 3年 1月	英国Institute of Child Health留学
平成11年 7月	和歌山県立医科大学講師
平成14年 4月	済生会和歌山病院外科医
平成18年10月	済生会和歌山病院心臓血管外科部長
平成20年 4月	東京医科大学血管外科講師
平成22年 5月	東京医科大学血管外科准教授
平成23年 4月	東京医科大学八王子医療センター心臓血管外科准教授
平成25年 2月	関西医科大学附属滝井病院末梢血管外科診療教授、血管内治療センター長

大 学

◆1～3月の主な行事

日程	行事名	場 所
3月6日	第59回卒業式	附属滝井病院
3月12日	教員評価優秀者表彰式	附属枚方病院

日程	行事名	場 所
3月26日	平成25年3月学位記授与式	枚方学舎

滝井キャンパスで最後の卒業式挙行 101名が有終

3月6日(水)午後1時から、附属滝井病院6階大講堂において「第59回卒業式」が挙行され、山下敏夫理事長・学長ら教職員が出席したほか、竹中洋大阪医科大学学長はじめとするご来賓、多数の保護者が臨席されました。コールクライスによる学歌斉唱の後、山下理事長・学長から101名の卒業生一人ひとりに学位記が授与され、「進化する関西医科大学の卒業生として誇りを持ち、健康で意義のある人生を送ってください」と、学び舎を巣立つ卒業生にエールを送りました。続いて在学生代表によるはなむけの言葉が贈られ、卒業生総代による答辞ではお礼の言葉や6年間の思い出を語るとともに新たな決意をみなぎらせました。さらに、来賓の秋田光彦同窓会会長、水野孝子財団法人加多乃会会長から祝辞を頂戴し、最後は「仰げば尊し」を斉唱して閉会しました。



卒業生に学位記を手渡す山下理事長・学長(中央)

本学は4月1日に枚方学舎に移転したため、滝井キャンパスでの卒業式は今年度で最後となります。出席した教員らは感慨深げな表情を浮かべていました。

学 長 告 辞

卒業生の皆様、ご父兄の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。また、本式典にご臨席頂きました大阪医科大学の竹中洋学長をはじめご来賓の皆様にご心から感謝申し上げます。

本日、男子61名、女子40名、合計101名の卒業生を送り出すことができ、また皆様の晴れ晴れとしたお顔を拝見し、私自身大変な喜びであり、と同時にこれまでの努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思います。さらに皆様の卒業を心待ちにしながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の方々に深く敬意を表します。

私は皆様が本学に入学された平成19年4月に学長に就任し、直後の入学式で初めての学長告辞を皆様の前で行ったことを今でも鮮明に覚えています。皆様と学長として6年間共に歩んだ私にとり大変印象深い学年です。この6年を振り返ってみますと数々の改革が行われました。学部教育に関しては入試センター、国際交流センター、医学教育センター、教育医長制度などが創設され、特別枠による入学定員増がありました。また大学全体としては男山病院の閉院、香里病院の開院、新学舎建設とそれに伴うグラウンドの移設などがありました。様々なことが走馬灯のように頭の中を駆け巡ります。これら出来事の一

部は皆様と直接関係なかったこともありますが、近い将来、これらの改革や変化は皆様にとり、また、関西医科大学にとり大きな意味を持つことと確信します。

もう1つ印象深いことは、皆様がこの伝統ある滝井キャンパスで卒業式を行う最後の学年であるということです。その理由をご承知のように、4月1日から枚方に新学舎がオープンするためです。新学舎がオープンしますと本学が開学して85年にして始めて、全ての教育・研究施設と附属病院が同一場所に集まり、所謂「医科大学としての真の学園」がここに誕生することになります。まさに画期的なことです。これを1つの契機と捉え、本年は本学の教育・研究・診療の全てを変える年にしたいと考えています。ではどのように変わるのかを、本学の近未来像を整理して皆様にお示ししますのでしっかり頭に入れて卒業し、今後のキャリア形成に役立ててください。

新学舎ができますと研修医、専修医、若手医師の居住スペースが十分獲得でき、また研究室、図書館、シミュレーションセンターなどを十二分に利用でき、理想的な卒後のキャリアアップが図れる環境が整います。さらに保育所拡大、短時間勤務正職員制度の充実で女性医師の環境整備や、スーパードクター制度の活用による臨床留学の充実が考えられてい

大 学

ます。また診療機能の強化を図ります。具体的には枚方病院に神経内科移設、歯科口腔外科新設、外来化学療法室と手術室の拡充、さらには救急医学講座の開講、乳腺外科、血管内治療外科、呼吸器腫瘍内科などの診療科の新設を行います。滝井病院にPETセンター、透析センター、心臓血管病センター、末梢血管外科を新設します。

滝井病院に関してのビックニュースは、滝井キャンパスの跡地に新しい病院を建てる滝井リニューアル計画がスタートしたことです。具体的なプランですが、現在の大学跡地に地下1階、地上6階の新しい病院と立体駐車場を建築します。ここに外来施設、手術室(13室)、集中治療室、外科系を中心とする300床前後の病室を配置します。新病院は平成28年春にオープン予定です。比較的新しい南館、北館は改修して残します。リニューアル計画の最終段階では、現在のABC棟、EF棟を取り壊して、その跡地に緑豊かなホスピタルガーデン(サッカーの公式グラウンドの広さに相当)を作ります。この場所は病客のみならず、近隣の人々の憩いの場所にもなり、滝井地区の緑化にも貢献できます。全てが完成するグラウンドオープンは平成29年の秋を予定しています。

以上が本学の近未来像です。新学舎に関して皆様は残念ながら少しタイミングがずれて学生としてはこれを利用できませんでしたが、しかし先ほども述べましたように、卒業後、研修医としてさらにはその後のキャリア形成に大いに役立つと思います。関西医科大学はこのように変革期を迎え、大きく飛躍しようとしています。初期研修を他学、他病院で行われる方々に対してのお願いですが、後期研修には是非この素晴らしい母校に戻ってきてください。教職員上げて皆様の帰学を歓迎し、また期待していることを忘れないでください。

さて少し目を外に向けてみましょう。最近ヨーロッパの金融危機、中国・韓国との「島」をめぐる軋轢、景気の悪化、東日本大震災からの復興の遅れ、政治の混迷など暗いニュースが続きます。また医療面でも医師不足などによる地域医療崩壊や低医療費政策など何も改善されていません。その中で皆様は本日卒業され、国家試験に合格しますと医師として社会で、医療界で生きることになります。このような多難な社会や医療界で、皆様は今後どのように生きていくべきでしょうか。まず基本的なことは医師としての心と技能を磨き、その使命を着実に果たすことからスタートしてください。6年間学んだ知識やスキルを、意欲と情熱を持って医療の現場で活用し、レベルアップしてください。これらの日々の努力が自らを成長させ、医療界に貢献でき、結果として社会

に役立つことと思います。さらに付け加えますと、自らのQOLを少し犠牲にして患者さんのQOLを考える高い志を持った、また何度かは来るであろう荒波にも立ち向かえる強靱な心と平常心を持った医師になってください。

暗いニュースが多い中で、大きな光明は本学の客員教授であり、本学と何かと縁の深い山中伸弥先生がノーベル賞を受賞されたことだと思います。先生の実績に敬意と祝意を表すると共に、人間の生命と健康という極めて重要な問題の改善に、日本の知性が貢献したことを誇りに思います。本学も大変なパワーをいただきました。今後、この事が本学にとり研究活動の活性化への契機になればと願っております。もともと臨床家であった山中先生は病気を根本的に治すには基礎研究が極めて大切であることを、身をもって私たちに示していただきました。そして少なくとも臨床医にとり病気を病因から探り、トータルな治療を行うにはサイエンスが不可欠で、そのためには科学する心(リサーチマインド)を持つことが是非必要です。幸い、昨年末には本学に研究医枠として2名の入学定員増が、西日本の私立医科大学で初めて認められました。新学舎オープンと相俟って本学の研究力の向上が期待できます。どうぞこれからのキャリア形成の中で臨床研究、基礎研究を問わず一度は研究生活を体験してください。

また、山中先生は、その主たる業績を日本国内で行われたという意味でも素晴らしいことですが、しかし研究の大きな方向性を決められたのは米国留学中で、今も最近の研究動向に触れるために月に一度、日米の研究拠点を往復されています。皆様も「井の中の蛙」にならずに一度海外留学を考えてみてください。私は「感受性の豊かな若い一時期に異文化と接することにより、世界的視野で物事を考える下地が作れ、それがその人の大いなる成長に繋がる」と信じています。

本日は皆様の入学以後の6年間、本学が歩んできたことを、また近未来像として新学舎オープンを契機に本学は大きく変革すること、この進化する本学でのキャリア形成をすすめること、さらには高い志、強靱な心、平常心を持つこと、研究する心や留学のすすめなどについてお話いたしました。どうぞこれらを心に留めていただきたいと思います。

今後皆様が人間性豊かであると同時に、正確な知識と卓越した技術を持った医師として大輪の花を咲かせてください。さらに、この進化する関西医科大学の卒業生として誇りを持ち、健康で意義のある人生を送れることを心から祈念し、私の祝辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

大 学

平成25年度3月学位記授与式を挙

「平成25年度3月学位記授与式」が3月26日(火)午後3時30分から、枚方学舎4階カンファレンスルームDで挙行され、11名に博士(医学)の学位記が授与されました。山下敏夫理事長・学長から学位取得者一人ひとりに学位記が手渡され、さらに「新学舎が完成し、一層の研究環境が整った本学で、これからも研究を続け、ぜひ下の世代を指導してほしい」との激励の言葉が贈られました。



学位記を授与され、山下理事長・学長とがっちり握手を交わす学位取得者

平成24年度教員評価優秀者30名を表彰

教員評価委員会は、このほど平成23年度の「教員の活動状況調査票」をもとに平成24年度教員評価優秀者30名を選定し、3月12日(火)に山下敏夫理事長・学長から表彰状と図書券が贈呈されました。平成24年度から受賞が各職位において通算3回を超える教員については表彰の対象外としたほか、教授職への表彰を廃止、さらに助教職への表彰を昨年度より5名増加させました。「教員の活動状況調査票」の提出者は、対象者455名全員となり、平成23年度と同様、提出率100%となっています。優秀者は次の通りです。

■平成24年度教員評価優秀者(職位は平成24年7月調査開始時点)

准教授

渡邊 淳	(大学情報センター)	伊藤量基	(内科学第一)	廣原淳子	(内科学第三)	高田秀穂	(外科学)	岩瀬正顕	(脳神経外科学)
------	------------	------	---------	------	---------	------	-------	------	----------

講師

矢尾育子	(医化学)	義澤克彦	(病理学第二)	尾崎吉郎	(内科学第一)	宮坂陽子	(内科学第二)	内田一茂	(内科学第三)
福井寿朗	(内科学第三)	加藤正樹	(精神神経科学)	海堀昌樹	(外科学)	角田智彦	(胸部心臓血管外科学)	保坂直樹	(臨床検査医学)

助教

中塚隆介	(衛生学)	孫 瑛洙	(内科学第一)	鳥居芳太郎	(内科学第一)	三島伸介	(内科学第一)	横井 崇	(内科学第一)
水野泰行	(心療内科学)	和手麗香	(神経内科学)	織田裕行	(精神神経科学)	杉本達哉	(精神神経科学)	嶽北佳輝	(精神神経科学)
谷川暢之	(整形外科)	日原正勝	(形成外科学)	齊藤福樹	(救急医学)	櫻本和人	(救急医学)	宮崎秀行	(救急医学)

第107回 医師国家試験の結果

「第107回医師国家試験」の結果が3月19日(火)に厚生労働省から発表されました。新卒受験生105名のうち98名が合格し、合格率93.3%でした。新卒者・既卒者を合わせると120名のうち104名が合格、合格率は86.7%という結果でした。

平成25年度も合格率100%を目指して全学を挙げて取り組んでいきます。

平成24年度卒業生進路 32名が本学初期研修医

平成24年度卒業生101名の進路は、本学初期研修医が32名となりました。その他の内訳としては、国立大学病院11名、公立大学病院8名、私立大学病院5名、市中病院34名などとなっています。枚方病院や滝井病院ではフレッシュな顔ぶれの初期研修がスタートしています。

■平成25年度大学関係役職員新体制

学長	山下 敏夫	学生副部長	木村 穰
	伊藤 誠二		赤根 敦
副学長	友田 幸一	大学院医学研究科教務部長	中邨 智之
	松田 公志	附属図書館長	螺良 愛郎
教務部長	友田 幸一	附属生命医学研究所長	木梨 達雄
	藤澤 順一	総合研究施設長	中邨 智之
教務副部長	前田 茂	実験動物飼育共同施設長	上野 博夫
学生部長	楠本 健司	アイソトープ実験施設長	藺田 精昭
		病態分子イメージングセンター長	伊藤 誠二

大 学

マレーシア国立循環器病センター医師団が本学を表敬訪問

平成18年に本学との学術協定提携を結び、学生の海外臨床実習先として親交の深いマレーシア国立循環器病センター(IJN)胸部心臓外科のSivakumar Sivalingam医師ら3名が4月8日(月)午前11時に本学および附属枚方病院を表敬に訪れました。本学の国際交流や医学教育のさらなる有効な交流を深めることが目的で、この日は山下敏夫理事長・学長と面会したほか、枚方学舎と附属枚方病院をそれぞれ見学、さらに友田幸一国際交流センター長、木下洋医学教育センター長、胸部心臓血管外科学講座の岡田隆之助教ほか教員2名とのランチミーティング、同講座の湊直樹教授の手術見学や面談などを行い、医療や教育に関する情報を交換しました。



山下理事長・学長(中央右)ら本学教員と写真に収まるIJNの皆さん

平成26年度一般入試が変わります

平成26年度から一般入試が変わります。新たに後期試験を導入し(大阪会場のみ)、これまでの推薦入試、一般入試前期試験、センター試験利用入試に加えて計4回の受験機会が設けられます。また、前期一次試験受験会場を名古屋と福岡にも設けることになり、従来大阪、東京に加えて計4カ所で試験を受けることができます。詳細は平成26年度学生募集要項(平成25年6月下旬発行予定)をご覧ください。

平成25年度の入学試験結果

平成25年度の推薦、センター試験利用入試、一般(大阪、東京の2会場で実施)の合計志願者数は3,037名(各52、1,228、1,757名)でした。24年度の合計志願者数は1,731名(推薦、一般(大阪会場)のみ)で、大幅に増加しました。内訳は以下の通りです。

人数		入試別	推薦入試	センター試験 利用入試	一般入試			全入試合計
					約87名(一般枠)			
定員			約10名(特別枠)	約15名(一般枠)	大阪会場	東京会場	計	
志願者	男		19	751	965	168	1,133	1,903
	女		33	477	544	80	624	1,134
	計		52	1,228	1,509	248	1,757	3,037
1次試験受験者	男		19	747	906	151	1,057	1,823
	女		33	473	517	73	590	1,096
	計		52	1,220	1,423	224	1,647	2,919
2次試験受験者	男		18	96	213	30	243	357
	女		31	52	101	15	116	199
	計		49	148	314	45	359	556

平成25年度後期大学院博士課程入学試験結果

平成25年度後期大学院博士課程入学試験が1月19日(土)に専門部学舎で実施され、外国語試験と専攻別授業科目試験が行われました。大学院博士課程に外国人特別学生4名を含む18名、同時に行った論文博士語学試験には2名がそれぞれ受験し、全員が合格しました。

大 学

平成25年度 教務関係日程表

1学年	
4/5(金)	入学式
4/8(月)～10(水)	新入生オリエンテーション
4/11(木)・12(金)	合宿研修
4/15(月)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講(5月連休)
6/30(日)	創立記念日
7/1(月)	創立記念日に伴う振替休日
7/8(月)～19(金)	試験期間
7/19(金)	1学期終講
7/20(土)～8/31(土)	夏季休業
9/2(月)	2学期開講
11/1(金)～3(日)	大学祭
12/9(月)～12/21(土)	試験期間
12/21(土)	2学期終講
12/24(火)～1/7(火)	冬季休業
1/8(水)	3学期開講
1/8(水)	基礎医学概論開始
2/24(月)～3/7(金)	試験期間
3/5(水)	卒業式
3/14(金)	3学期終講

2学年	
4/4(木)	新2学年ガイダンス
4/8(月)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講(5月連休)
5/15(水)	解剖体追悼法要
5/22(水)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/1(月)	創立記念日に伴う振替休日
7/16(火)～19(金)	試験期間
7/19(金)	1学期終講
7/20(土)～8/31(土)	夏季休業
9/2(月)	2学期開講
9/24(火)～27(金)	試験期間
11/1(金)～3(日)	大学祭
12/16(月)～21(土)	試験期間
12/21(土)	2学期終講
12/24(火)～1/7(火)	冬季休業
1/8(水)	3学期開講
2/17(月)～3/15(土)	試験期間
3/5(水)	卒業式
3/15(土)	3学期終講

3学年	
4/6(土)	新3学年ガイダンス
4/8(月)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講(5月連休)
5/15(水)	解剖体追悼法要
5/23(木)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/1(月)	創立記念日に伴う振替休日
7/8(月)～19(金)	試験期間
7/19(金)	1学期終講
7/20(土)～8/23(金)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
11/1(金)～3(日)	大学祭
12/20(金)	2学期終講
12/21(土)～1/7(火)	冬季休業
1/8(水)	3学期開講
1/27(月)～2/21(金)	試験期間
1/27(月)～3/15(土)	配属実習
3/5(水)	卒業式
3/15(土)	3学期終講

4学年	
4/2(火)	新4学年ガイダンス
4/8(月)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講(5月連休)
5/24(金)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/1(月)	創立記念日に伴う振替休日
7/19(金)	1学期終講
7/20(土)～8/23(金)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
11/1(金)～3(日)	大学祭
12/20(金)	2学期終講
12/21(土)～1/7(火)	冬季休業
1/8(水)	3学期開講
1/23(木)・24(金)	CBT共用試験
2/17(月)～3/7(金)	試験期間
3/1(土)	OSCE共用試験
3/5(水)	卒業式
3/10(月)～15(土)	プレ・クリニカルクラークシップ
3/15(土)	3学期終講

大 学

5学年	
4/2(火)	新5学年臨床実習生認証式・ガイダンス
4/8(月)	1学期開講
4/8(月)～3/7(金)	臨床実習
4/30(火)～5/2(木)	休講(5月連休)
5/23(木)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/1(月)	創立記念日に伴う振替休日
7/26(金)	1学期終講
7/29(月)～8/17(土)	夏季休業
8/19(月)	2学期開講
12/21(土)	2学期終講
12/24(火)～1/7(火)	冬季休業
1/8(水)	3学期開講
1/8(水)	クリニカル・クラークシップ総合試験
2/10(月)～15(土)	クリニカル・クラークシップ総合試験再試期間
3/5(水)	卒業式
3/15(土)	3学期終講

6学年	
3/29(金)	新6学年ガイダンス
4/1(月)	1学期開講
4/1(月)～6/29(土)	臨床実習
4/30(火)～5/2(木)	休講(5月連休)
5/24(金)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/1(月)	創立記念日に伴う振替休日
7/20(土)	Advanced OSCE
7/20(土)	1学期終講
7/22(月)～8/23(金)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
8/26(月)～10/18(金)	卒業試験
10/23(水)～25(金)	総合試験
10/25(金)	2学期終講
10/28(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/5(水)	卒業式

注)休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

■平成25年度クラスアドバイザー一覧

第1学年	影島 賢巳	教 授
第1学年	森田 正之	講 師
第2学年	伊藤 誠二	教 授
第2学年	松村 伸治	講 師
第3学年	赤根 敦	教 授
第3学年	吉田 学	准教授

第4学年	高橋 寛二	教 授
第4学年	山田 晴彦	准教授
第5学年	権 雅憲	教 授
第5学年	松井 陽一	准教授
第6学年	岡本 祐之	教 授
第6学年	爲政 大幾	准教授



健康いきいき通信

第1回 「健康診断」

新学期がはじまり、もう五月を迎えます。さわやかな季節になりました。このコラムでは学生の健康にかかわる話題を連載していきます。

年度始めの今回のテーマは「健康診断」です。本学では、入学直前とそれ以降は毎年5月に健康診断があります。一般に学生の健康診断は、健康状態の維持、増進が目的ですが、医学生の場合にはもうひとつ大きな目的があります。医学生は、感染に対する抵抗の弱い人や、万一感染すると大きな問題に発展する可能性の高い人に接することが多いのです。このため自らが感染源とならないよう、常に確認するということが必要です。このような態度は、医師として働く限りは、一生持ち続けるものですが、学生時代から自らの健康状態に対して、責任のある立場ということをしっかりと自覚しておいてください。

最近、健康診断時に血圧の高い学生が10%程度見られるようになってきました。収縮期(上の血圧)130以上、拡張期(下の血圧)80以上あれば測定時再検していますが、2度の測定でも前記の値を超える学生がいます。血圧は状況に応じて変動するのが本来の機能ですので、検診の測定で高めに出て直ちに病気としての高血圧を心配する必要はありません。とはいうものの異常値を指摘されるのは気持ちのいいものではないでしょう。その気持ちの悪さをよい機会ととらえて、「健康診断で血圧を測るのはなぜ」「測っているのは何」「高いと何が問題なのか」「検診の異常値にはどう対処したらいいのか」など、興味を持って学んで見てはどうでしょう。自らの健康管理に責任を持つ、このような医師として必要な態度を養う良い機会になるはずです。

学医 福永幹彦(心療内科学講座教授)

大 学

臨床実習生認証式を挙

平成25年度臨床実習生認証式が4月2日(火)午前9時から、枚方学舎1階加多乃講堂で挙

式典で山下理事長・学長は「これから君たちは50年、60年医者として生きていくでしょう。医師の資質を決める重要なこの2年間を頑張って下さい」と激励し、学生代表の平井千恵さんが「多くの不安がありますが、目標に向かって全力で取り組み、全員でやり遂げます」と誓いの言葉を述べました。

また、冒頭には友田幸一教務部長が「挨拶を心掛け、患者さんとコミュニケーションを取ることが大切。それが医師の第一歩です」と激励したほか、澤田敏附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長がそれぞれエールを贈りました。



臨床実習スタートに向けて士気を高める5学年109名の学生たち

慈仁会定期総会開催

4月5日(金)の入学式後に枚方学舎第4講義室で平成25年度慈仁会定期総会並びに新入生保護者懇談会が開催され、山下敏夫理事長・学長をはじめとした教職員、慈仁会・同窓会関係者、そして113名の保護者が出席しました。冒頭、友田幸一教務部長から本学の教育について、楠本健司学生部長から学生生活に関してそれぞれ説明が行われました。また、平成24年度事業報告及び決算、平成25年度事業計画及び予算がいずれも承認されたほか、役員の変更、新1学年の委員の推薦が行われました。引き続き、新学舎内の学生食堂で懇談会が催され、保護者と教員間で交流が繰り広げられました。

平成25年度慈仁会主要役員は次のとおりです。



学生生活について説明する楠本学生部長

7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン

第1回プロジェクト審査委員会開催

昨年度から始まった7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン(文部科学省採択事業がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)の第1回プロジェクト審査委員会が3月6日(水)午後6時30分から大阪市のAPホールⅡで開かれました。同プランの進捗状況や活動報告があり、教育改革、地域医療、研究者養成の各部門と緩和ケアの取り組みについての発表があり、続いて各大学による活動報告が行われ、本学では内科学第一講座の野村昌作教授による報告がありました。また、報告内容に対して外部評価委員4名、内部評価委員1名による講評がありました。

友田幸一教務部長
カリキュラムについて説明する



オリエンテーションで学生生活スタート

新入生オリエンテーションが4月8日(月)から3日間、枚方学舎で実施されました。本学のカリキュラムや「研究医養成コース」についての説明のほか、教員の講話や学生生活を送る上でのポイント解説などがありました。新入生たちはこれから始まる学生生活に向けて意欲を高め、緊張した面持ちでメモを取りながら、真剣に耳を傾けていました。また、4月11～12日には兵庫県の淡路島で1泊2日の合宿研修が行われ、グループワークなどで交流を深めました。

中邨教授のグループが弾性線維を増やすタンパク質発見

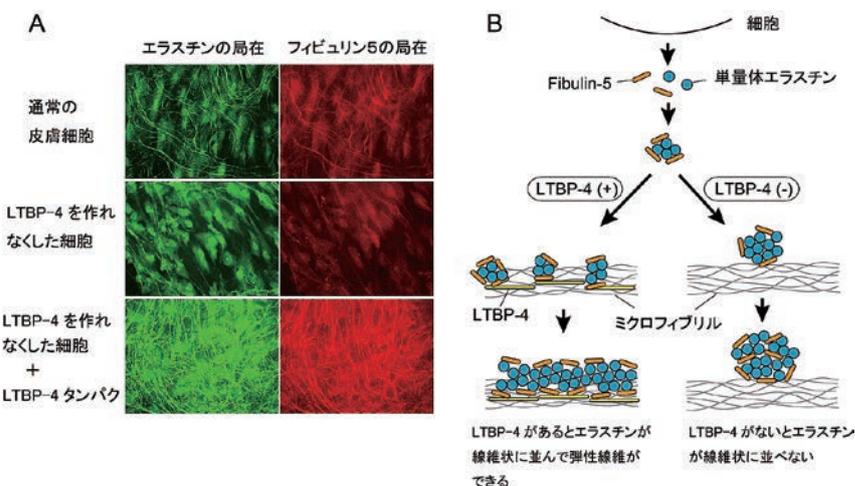
～皮膚のたるみや肺気腫の治療に道を開く～

薬理学講座の中邨智之教授、京都大学医学部の野田和男研究員、ロート製薬の高木恭子研究員らのグループが内閣府の「最先端・次世代研究開発支援プログラム」による支援を得て弾性線維を増やすLTBP-4というタンパク質を発見し、その分子機構を明らかにしました。弾性線維はゴムのように伸縮する細胞外線維で、皮膚・肺・血管などに多くあって組織の伸縮性を司っています。弾性線維は加齢や紫外線、喫煙によって破壊され、皮膚のたるみや肺気腫、動脈の硬化の直接原因となりますが、弾性線維の再生は困難とされていました。

中邨教授らは、これまでに弾性線維形成に必須のフィブリリン5というタンパク質を発見していますが、今回、遺伝子改変マウスと細胞培養を用いてLTBP-4がフィブリリン5の働きに必須であることを見出しました。さらに、LTBP-4を皮膚細胞の培養に加えると多量の弾性線維が形成されることも分かりました。

今回の研究により、LTBP-4タンパクそのもの、もしくはLTBP-4を増やす薬物が皮膚のたるみや肺気腫、動脈の硬化の予防・治療薬となる可能性が考えられ、全く新しい機序に基づく老化関連疾患治療薬開発のきっかけとなることが期待されます。

この研究成果は、2月4日の「米国科学アカデミー紀要(PNAS)電子版」に公開されました。



図A. LTBP-4による弾性線維形成誘導。通常の皮膚線維芽細胞は弾性線維(エラスチンとフィブリリン5が局在する線維)を作ることができるが、LTBP-4を作れなくした線維芽細胞はエラスチンもフィブリリン5も線維状に沈着できない。そこにLTBP-4タンパクを加えると、多量の弾性線維ができる。

図B. LTBP-4が作用するしくみ。マイクロフィブリルという線維の上にエラスチンが沈着して弾性線維ができる。LTBP-4は、フィブリリン5を介してエラスチンをマイクロフィブリルの上に沈着させる。

病態分子イメージングセンターの特別講演開催

病態分子イメージングセンターと卒後臨床研修センターのジョイント特別講演会が3月22日(金)午後5時から、附属枚方病院13階合同カンファレンスルームで開催されました。この講演会は平成23年度採用臨床研修修了式の後で開催され、病態分子イメージングセンターの伊藤誠二センター長が司会を務め、修了生をはじめ本学教員ら72名が参加しました。

理化学研究所発生・再生科学総合研究センター器官発生研究グループの笹井芳樹グループディレクターを講師に招聘しました。笹井グループディレクターは「三次元培養での幹細胞から機能的な器官の自己形成」をテーマに、ES細胞から自己組織化された細胞が持つ不思議な力とメカニズムについて説明があり、機能的な器官のin vitro形成をめざし、高度な再建を行う「次々世代の再生医療」の基盤技術の展望について講演されました。

高性能骨導素子を用いた骨導補聴器開発の成果発表

経済産業省の受託事業である「平成24年度課題解決型医療機器等開発事業」成果報告会が3月12日(火)に東京の(ニッショーホール)で開催され、400名超が参加しました。本学が幹事機関となって採択された「高性能骨導素子を用いた骨導補聴器の開発」(PL(プロジェクトリーダー):友田幸一耳鼻咽喉科学講座教授、再委託先:ゴールデンダンス株式会社、株式会社坂本設計技術開発研究所、株式会社プロアシスト)は、「全40団体の中から「選りすぐり」の9団体の一つ」に選択され、三島健顧問(産学連携知的財産統括室)が発表を行いました。本事業は経済産業省の目玉施策の一つであり、赤羽一嘉副大臣が主賓挨拶されるなど、医療産業を国の成長産業の一つと位置付けていることが窺えました。

なお、本学の受託案件については、平成25年度も継続(本年度申請額:6,500万円)されることが内定しています。

大 学

新しいキャンパスライフがスタート

4月から枚方学舎での生活がスタートしました。これまで以上に学びの環境が整備された枚方学舎では、快適な学生生活が繰り広げられています。本誌では随時「学舎移転後の学生生活」をテーマにした情報を紹介します。今回は、学内の飲食に関する情報をピックアップしました。

■学生食堂でバランス良い食事を

3階の学生食堂は280人を収容する広さです。うどんやカレーといった定番メニューのほか、栄養バランスの良い定食も各種取り揃えています。4階にはカフェテリアと、そこからつながる屋上庭園があり、休憩時間を過ごすことができます。

屋上庭園でゆったり過ごすことができます



広々とした学生食堂

学舎内での飲食について

学舎内では飲食可能な場所と時間帯が決まっていますので厳守をお願いします。

<飲食可能な場所と時間>

○3階学生食堂

営業日：本学の開校日、但し土、日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)を除く
(春休みや夏休み等、学生の長期休暇期間はメニューを絞って営業)

○カフェテリア

24時間開放しています。※ただし、屋上庭園は月～金8：00～18：00のみ開放です。

○第1、2、3、4講義室 … 昼休み(11：35～12：50)のみ飲食可能です。

○その他の場所について … 上記以外の場所での飲食はご遠慮ください。

6月30日

オペリスクが神秘的に演出

正門前にそびえ立つオペリスク(記念塔)は本学のシンボルです。このオペリスクは、本学の創立記念日である6月30日に太陽の光を集光し、記念板を照らすよう細工されています。これは必見です。

創立記念日に学園を神秘的に演出するオペリスク。枚方学舎のシンボルです



病 院

◆1～3月の主な行事

日程	行事名	場 所
1月25日	消防訓練	附属滝井病院
2月2日	市民公開講座	附属滝井病院
2月23日	看護研究発表会	附属枚方病院
2月27日	寝屋川消防署との合同消防訓練	香里病院

日程	行事名	場 所
2月28日	業務改善コンテスト最終発表会	附属枚方病院
3月2日	業務改善コンテスト最終発表会	香里病院
3月7日	枚方寝屋川消防組合表彰式	枚方寝屋川消防本部
3月30日	業務改善コンペティション最終発表会	附属滝井病院

3病院で業務改善取組み事例を発表

附属3病院において業務改善に関する取組みの最終発表会がそれぞれ実施されました。附属枚方病院では2月28日(木)午後5時30分から13階講堂で開催され、昨年の最優秀賞と優秀賞の2チームから、その後の成果発表が行われた後、1次審査を通過した8チームによるプレゼンが行われました。附属滝井病院では3月30日(土)午後1時30分から南館2階臨床講堂で実施され、1次審査を通過した10チームによる活動内容の発表がありました。香里病院では3月2日(土)午前9時15分から8階会議室で行われ、12チームによる取り組み内容の発表が行われました。

枚方病院は「医療材料費削減」がテーマの「ダヴィンチ導入推進チーム(腎泌尿器外科)」が、滝井病院は「チームで関わる糖尿病患者の透析予防」を標題にした「進め!!透析予防志隊(循環器内分代謝内科外来)」が、香里病院は「効果的なゴミの削減～一般ゴミに着目して～」がテーマの「パイナップル娘」(手術部)が、それぞれ最優秀賞に選ばれました。



各チームによるパフォーマンスたっぷりのプレゼンが行われました=写真は附属枚方病院の最終発表会の様子

看護研究発表会開催

2月23日(土)に附属3病院看護部による看護研究発表会を附属枚方病院で開催し、各病院から22演題が発表されました。

また、今回は新たな企画として「頭をひねって考えまし展」と題し、日々の看護ケアの中でちょっとした気づきから開発、工夫、あるいは改善した看護用品を募集しました。各病院から11点の出品があり、投票の結果最優秀賞に滝井病院6E病棟、優秀賞に枚方病院4N病棟と滝井病院看護部感染対策委員会が選ばれ、それぞれ表彰されました。産学連携知的財産統括室長の三島健顧問も参加し「作品の中にはすぐにでも商品化できる出来栄えの物もある」などとの高評価を得ました。

看護研究及び看護用品の開発は、患者さんに安全・安楽な看護ケアの提供を目標に今後も進めていきます。



出展された作品の一例

附属枚方病院

院内ボランティア活動者に対する表彰式、交流会を開催

附属枚方病院では、院内ボランティア活動のスタートから5年を迎え、現在57名のボランティアの皆さんに登録・活動をいただいております。このたび活動5周年を記念し、3月13日(水)午後1時から、今村洋二病院長から累計500時間以上活動されたボランティアの吉房さんに感謝状と16名のボランティアさんにはメッセージカードが手渡され、記念撮影が行われるなど、活動の労がねぎらわれました。また、引き続き、ボランティアの皆さんと病院長及びボランティア委員会のメンバーによる交流会が行われました。



今村病院長から感謝状が贈られました

病 院

澤田常務理事が附属枚方病院長に就任

附属枚方病院は3月31日付任期満了で今村洋二病院長が退任し、4月1日付で澤田敏常務理事が新病院長に就任しました。任期は平成25年4月1日から平成27年3月31日までです。

神経内科を附属枚方病院に移設

神経内科 教授 日下 博文

4月1日から神経内科の診療機能の中心が枚方病院となりました。これは大学の移設に伴うものです。平成9年10月、関西医科大学に神経内科学講座が創設されると同時に、当時の附属病院(現附属滝井病院)にて診療がはじまりました。15年6カ月の間、診療、教育、研究と教室一丸となって活動できましたのも皆様の深いご理解とご支援の賜物と、心よりお礼申し上げます。

この度、大学が枚方へ移設されたことに伴い、従来通りの活動を継続、発展させるために診療の拠点も枚方病院へ移設させていただきました。多大なご理解、ご指導を賜った山下理事長・学長先生、両病院長先生、看護部長さんに深謝致します。さらに、具体的な移設作業につきましては、滝井病院および枚方病院の外来、病棟の看護師長、看護師、事務員の皆さん、地域医療連携室、医療情報部、医療安全部、施設課、中央検査部など関係の方々に綿密な検討を重ねていただきました。平成21年から既に枚方病院で診療開始しています脳血管内治療部門と合流して、神経内科の診療が平成25年4月1日から展開できる体制が整いました。診療、教育、研究を文字通り集約して本学の発展に一層寄与したいと教職員全員気持ちを引き締めているところです。これまで以上のご支援、ご指導のほどよろしく御願ひ申し上げます。

なお、滝井病院では外来機能は継続致しますので、従来通り診療依頼を宜しくお願い致します。

附属滝井病院

末梢血管外科外来、血管内治療センター、心臓血管病センター、透析センター、PETセンター開始

平成25年、更なる医療の充実を目指し、滝井病院は新たな部門を開設しています。第1歩として、2月1日付で末梢血管外科外来、血管内治療センターを開設し、4月1日付では心臓血管病センター、透析センター、PETセンターを設置しました。末梢血管外科部長・血管内治療センター長は駒井宏好診療教授が、心臓血管病センター長は川副浩平特命教授が、透析センター長は西川光重教授が、PETセンター長は宇都宮啓太准教授がそれぞれ担当します。

「脱！生活習慣病！」をテーマに市民公開講座開催



生活習慣病に関する理解を深めた市民公開講座

2月2日(土)午後2時から、守口文化センターエナジーホールにて第15回市民公開講座(附属滝井病院主催)が開催され、昨年を大きく上回る202名が参加しました。「脱！生活習慣病！」をテーマに、耳鼻咽喉科の岩井大准教授が座長を務めました。内科学第二講座の野村恵巳子助教が「『糖尿病と動脈硬化』～血管もアンチエイジング！～」、糖尿病看護認定看護師の大久保緑看護師が「『食事と生活習慣病』～今日からできる食生活の工夫～」、整形外科の徳永裕彦講師が「『膝・股関節の痛みについて』～太るから痛い？痛いから太る？～」と題してそれぞれ講演し、参加者からは「気になる題材だったので勉強になった」などの感想が寄せられました。また、冒頭には關壽人教授による平成28年オープン予定の新病院本館の概要などについての紹介がありました。

病 院

夜間の消防訓練を実施

1月25日(金)午後3時30分から「消防訓練」を実施しました。今回の訓練は、夜間に本館(7号館)5階5E病棟の湯沸し室から出火し、当直師長の指揮により、看護師らが消火や避難誘導にあたるという想定で実施されました。当日は、守口消防署員の立会いのもと、約45名の職員が参加しました。訓練に参加した職員は火災の発見、通報、消火活動、また患者さん役の避難誘導等に取り組みました。

今回の訓練は、より実態に即した想定で行われ、参加者の眼差しは真剣で、臨場感あふれる訓練になりました。検証した消防署員からも、職員の行動は、おおむね良好であったとの講評もいただきました。



火消し訓練に奔走するスタッフ

香里病院

寝屋川消防署との合同消防訓練実施

2月27日(水)午後2時から、寝屋川消防署との合同消防訓練を実施しました。開院以来2回目となる合同消防訓練は「4階病棟で出火、自衛消防隊による消火を試みるも鎮火せず、避難するが患者が逃げ遅れた」という想定で実施され、消防署からは、はしご車による患者救出およびヘリコプター出動による現場確認などが行われました。

最後に寝屋川消防署長から「今後も火災を出さないことは無論、発生時にも沈着冷静な態度で行動願いたい」との講評がありました。



枚方寝屋川消防組合からの表彰

3月7日(木)に枚方寝屋川消防本部で、当院の多年にわたる消防行政に対する尽力と功績に対し、枚方寝屋川消防組合の竹内脩組合長(枚方市長)から感謝状の授与がありました。



整形外科が夕診開始 耳鼻咽喉科も日程増

整形外科が4月から夕方診療を開始します。また、耳鼻咽喉科も日程が増え、平日は全て夕方診療を行います。夕方診療の実施状況は下記のとおりです。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○
乳腺外科	○			○	
婦人科		○			○
腎泌尿器外科	○			○	
耳鼻咽喉科	○	○	○	○	○
整形外科		○			

附属看護専門学校

◆1～3月の主な行事

日程	行事名	場 所
3月7日	平成24年度卒業式	高殿学舎

日程	行事名	場 所
3月29日	看護学生寮閉寮式	看護学生寮

高殿学舎で最後の卒業式 77名巣立つ

附属看護専門学校の「平成24年度卒業式」が3月7日(木)午前10時から高殿学舎で挙行され、会場には来賓、保護者らが多数ご臨席されました。關壽人学校長から卒業生77名に卒業証書が授与された後、關学校長が式辞を述べ、続いて来賓を代表して山下敏夫理事長と安田照美附属枚方病院看護部長がそれぞれ祝辞を読み上げ、卒業生を激励しました。さらに、在校生を代表して田中恵美さん(2年生)が卒業生にはなむけの言葉を贈り、卒業生代表の梅原奈津美さんの答辞では、お礼の言葉や3年間の思い出を語るとともに新たな決意をみなぎらせました。

附属看護専門学校は今夏に牧野キャンパスへ移転することから、この度の卒業式は、高殿学舎から巣立つ最後の卒業生を送り出すものであり、出席者は感慨深げな様子でした。



關学校長から卒業証書を受け取る卒業生

学 校 長 式 辞

皆さん、ご卒業おめでとうございます。まずは関西医科大学附属看護専門学校を代表して、医療専門課程・専門士を授与された77名(女子72名、男子5名)の皆さんにお祝いを申し上げます。大変おめでとうございます。今日のこの日を心待ちにしてこられた、ご家族、保護者の皆様には衷心よりお喜びを申し上げます。また、ご来賓の皆様方におかれましては、お忙しい中ご臨席を賜り、卒業生の門出を共に祝って頂きますことを厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは本校に入学以来、勉学に励み、看護師となるべく必要な幅広い知識・技術の習得を目指すとともに、患者さんの不安や痛みに対するいたわりのところ、つまり共感する人間愛を、育んでこられたことと思います。看護師国家試験合格の後には、学んだことを礎に人に奉仕する人生がいよいよ始まります。いまこのときから、社会が皆さんの力を必要としていることをあらためて自覚して下さい。

看護師としてのスタートを前に、一言学校長として皆さんにお話をさせていただきます。新社会人に対する教育時に、仕事に向き合う態度においてよく言われることがあります。それは自身が目指す目標が曖昧なままでは必ず職業人として挫折すると云うことです。仕事に向き合う態度が中途半端であると、つい愚痴が出たり、場合によっては言い訳ばかりで、最後に自分自身が目指していた仕事ではないと、言い訳をして離職してしまうことが往々にしてあります。もとより皆さんは看護専門学校の入学を志した時から、ぶれなく大きな目標に向かって勉学に励んできた訳ですから、皆さんの目標は中途半端とは思っていません。ただ、実際に看護師生活がスタートすると、迷いが生じるかもしれません。

これまでは学生としての受身の人生でしたが、これからは能動的な人生が始まります。例えば医療人として、深刻な病気や悩みを持つ患者さんに対し積極的に関わることにより生じるジレンマ、あるいは複雑な社会を直接相手にすることによるストレス、負荷が、皆さんを悩ませることになるかもしれません。多分、多くの苦悩や挫折が待ち構えていると思います。しかし、そこでとどまるのではなく、初心を忘れず、是非、力強い、かつ心優しい看護師に成長してもらいたいと思います。

今後、皆さんが着用する白衣は覚悟とプライドの象

徴です、臆することなく、怯むことなく邁進してほしいと思います。力強い看護師、そして信頼される看護師となる方策は、医療の現場にて経験を積み重ねることにつきます。現場での経験を積み重ねることで、適格な判断を下せるようになり信頼される看護師へと成長していくのです。本当のプロの看護師を目指して頑張ってください。

プロの看護師という表現に、違和感を持つ方がおられるかもしれませんが、まずは患者さん、あるいは患者さんのご家族から看護のプロであることを認知してもらい、そこからまさに信頼関係が構築されるわけです。そうすれば、他人の痛み、苦しみを、自分のことのように共感し思いやる言葉をかけ、手をさし伸べるのが自然体で行えるようになります。

人生の喜びは、色々あります。出世すること、財をなすこともそうでしょう。しかし最大の喜びは、ひとに感謝されることだと思います。一度、感謝される場面を想像してみてください。育った環境、価値観の違いで、ひとそれぞれだと思います。しかし、家族に感謝される、友達に感謝される、同僚に感謝される、そして患者さんに感謝される。どれをとっても、人生の喜びではないでしょうか。実は、この喜びは、看護師としての仕事を全うする糧(かて)となります。是非、人生、最大の喜びを感じながら看護師の仕事に、邁進していただきたいと思っています。

さて、いままで、若干かたいお話をしましたが、これから社会人の先輩として皆さんが職場で成功するための方策を三つ授けたいと思います。

- 1:「挨拶をきちんとする」。率先して挨拶すれば職場における人間関係は円滑に進みます。
- 2:「時間を守ること」。約束の時間をいつも守ることで相手の信用や、信頼は倍増します。
- 3:「急がず、焦らない」。焦りは大きなミスを生みます。

以上三つは当たり前のことと思うでしょうが、これら3項目を実行するだけでも結構大変です。頑張ってください。

最後になりますが、今日までご指導にあたられた諸先生方、並びに関係機関、関係施設の方々に厚く御礼を申しあげる所です。4月からはじまる、皆さんの看護師としての輝く未来と今後の成長に期待し、式辞と致します。

附属看護専門学校

附属看護専門学校学校長選考について

3月31日で附属看護専門学校の關壽人学校長が任期満了となり、後任に岡崎和一内科学第三講座教授が新学校長に就任しました。任期は平成25年4月1日から平成27年3月31日までです。

高殿に迎える最後の入学生 平成25年度入学式を挙行

附属看護専門学校の「平成25年度入学式」が4月4日(木)午前10時から高殿学舎で挙行され、85名が入学し、看護師になるという夢へのスタートを切りました。来賓、保護者らが多数ご臨席されるなか、式典は岡崎和一学校長の式辞に続いて、来賓を代表して山下敏夫理事長と安田照美附属枚方病院看護部長がそれぞれ祝辞を読み上げ、新入生を激励しました。新入生を代表して下平沙紀さんが宣誓した後、在校生代表の長穂香さん(2年生)が歓迎の言葉を述べ、さらに新入生の土橋世奈さんが力強く学生生活の抱負を語りました。なお、本年度2学期から牧野へ移転するため高殿学舎で入学式を行うのは今回が最後となります。



宣誓する新入生代表の下平さん

学校長式辞

本日は入学おめでとうございませう。関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表してお祝いと歓迎の言葉を述べさせていただきます。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親をはじめ、ご家族先生方にも心からお祝いを申し上げます。併せて、ご来賓の皆様方には、本日はご多忙のところ、新入生のためにご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、81年目を迎える歴史ある看護専門学校です。この3月までに4,169名という実に多くの正看護師を世に送り出しております。

本年は34期生として女子79名、男子6名、計85名を本学に迎えました。新入生の皆さんは、本日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として、誇りと責任を持って是非、充実した学生生活を過ごしていただきたいと思ひます。

本学への入学に際し、皆さんに一言お話をさせていただきます。さて、今日から入学されますあなた方に私から四つの「K」をお送りしたいと思います。1つ目のKは勤勉、2つ目は謙虚、3つ目は国家試験、そして4つ目が希望です。これからの3年間、忘れることなく持ち続けてください。

看護という文字を調べてみますと「看」は手と目に従う、つまり目の上に手をかざして望み見ること、また「護」は注意深く守護する、鳥を手にとって祝詞をあ

げ鳥の様子を注視し、占って守ることをいうとあります。この様に看護師には広い視野を持ちつつ、目の前の傷や病を負った人々を支えていくという使命があります。

振り返ってみますと阪神大震災から18年、東日本大震災からわずか2年と私たちはまだまだ自然との闘いの真ただ中にいます。皆さんが敬愛するナイチンゲールはクリミア戦争で傷ついた人々の中に身を投じ、その歴史の狭間でまさに戦場の女神として働きました。統計学者でもあった彼女は勤勉に、そして環境に対して謙虚に、いつか戦争のない世界を、と希望して生涯を捧げました。さすがに国家試験に苦労したという話は書かれてははませんが、今日からあなた方も一人ひとりが看護の世界の歴史を日々築き上げてゆく立場であるという、大きな自負を持っていてください。

皆さんは、夏まではこの高殿校舎で学びますが、秋からは牧野の地での勉学となります。牧野は関西医大の開学の地でもあり、また本学も昭和47年から8年間、牧野を学び舎としており、我々の故郷であります。この緑豊かな学舎を訪れる度に、歴史と伝統を感じ心穏やかになる地です。今日から希望に向かって歩み始めて下さい。そして健康に気をつけながら、これからの3年間、日々勉学に励んでください。

皆さんの将来を託された立場にある私たち教職員は全力であなた方を支えるべく心をひとつにしておりますことをお伝えして、以上私のご挨拶としたいと思います。

本日は本当におめでとうございませう。

一般入試(前期、後期)を実施

附属看護専門学校の平成25年度一般入学試験は前期が1月10、11日、後期が2月19日にいずれも高殿学舎にて実施されました。前期は132名が志願し42名(男子2名)が、後期は97名が志願し13名(男子2名)がそれぞれ合格しました。

看護師国家試験の結果報告

3月25日(月)に第102回看護師国家試験の合格発表があり、本校は受験者82名が受験し、81名が合格しました。合格率は本校が98.7%で、全国では88.8%でした。

附属看護専門学校

3月で学生寮閉寮 お別れの式典挙行

附属看護専門学校の学生寮が今夏の同校学舎移転に伴って閉寮することになり、3月29日(金)午前11時から寮に別れを告げる「閉寮式」が執り行われました。關壽人学校長をはじめとした教職員や14年間管理人を務めた寺埜昭平さん、正子さんご夫妻、最近まで入寮していた在学生、過去に寮生だったOGら29人が参加しました。

式は寮の食堂で軽食を取りながら行われました。寮生や学生が一人ずつ寮生活の思い出や寺埜さんご夫妻への御礼の言葉などを述べ、中には感極まって涙ぐむ姿も見られました。また、当日参加できなかった学生による御礼の手紙やメッセージ映像が届き、手紙が読み上げられ、さらに映像が放映されると、会場は盛り上がりました。



寺埜さんご夫妻(前列中央)を囲んで集合写真に収まるOGと学生

卒後臨床研修センター

◆1～3月の主な行事

日程	行事名	場所
1～2月	看護管理、看護師副師長、臨地実習指導者、シスターの各研修	附属枚方病院

日程	行事名	場所
3月22日	平成23年度採用臨床研修医修了式	附属枚方病院

修了式では修了証が手渡されました



初期臨床研修医修了式を挙行

平成23年度に採用した初期臨床研修医の修了式が3月22日(金)午後4時から、附属枚方病院13階合同カンファレンスルームで挙行政され、39名(附属枚方病院32名、附属滝井病院7名)の研修医が初期臨床研修を修了しました。式典では今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長から各々の病院所属の修了者に臨床研修修了証が授与された後、両病院長と金子一成卒後臨床研修センター長から激励の言葉が贈られました。

看護実践支援部門が4研修を実施

卒後臨床研修センター看護実践支援部門は「社会に貢献できる医療人の育成」「大学病院の高度医療に対応できる看護師の育成」「看護職員に対する教育の一元化および体系化」を目指して活動し、今年で4年目を迎えます。教育体制の定着に加え、受講者のニーズや社会情勢を踏まえた研修を実施しており、充実が図られつつあります。

1月から2月には看護管理者研修、看護副師長研修、学生教育を担う臨地実習指導者研修、新人看護職員の相談役を担うシスター研修をそれぞれ実施しました。いずれも3病院、附属看護専門学校、大学の合同で実施し、人事交流につながるとともに、互いの経験や思いをディスカッションできる場となり、非常に有意義な研修会となりました。平成25年度は更なる教育の充実を目指します。



看護管理者研修を受講する参加者(左)と、講師として招聘した東京有明医療大学看護学部看護学科の金井Pak雅子学科長・教授

平成25年度採用の初期臨床研修医入職式挙行

4月1日(月)午前11時から、附属枚方病院13階合同カンファレンスルームで、平成25年度採用の初期臨床研修医入職式が挙行政されました。澤田敏附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長による祝辞の後、金子一成卒後臨床研修センター長から48名の研修医に辞令交付、白衣授与が行われ、金子センター長、木下洋医学教育センター長から祝辞がありました。なお、この日から同月12日(金)まで医師として的人格を涵養し、臨床研修の到達目標の理解に重点を置いた内容のオリエンテーションが実施されました。



入職式の後、記念撮影が行われました

さわやかな向後に

同窓会理事 子安 佳子(24回生)

本年は関西医科大学85周年に当たり、これを祝福するかのよう枚方新学舎が4月からオープン、新入生を迎えることになりました。その外観の偉容とともに、教育・研究・診療の充実した体制が整えられました。同窓会、加多乃会では各々80周年、40周年の記念祝賀会を11月3日に行うことになり、卒業生の一人として嬉しく誇らしく思っています。

関西医大2回生として卒業した私も82歳を間近にし、戦後間もない頃の学舎や病院で教育を受けた者にとっては、本学の外観や内容はもとより、医学全体の発展は目覚ましく、目を見張るものがあります。

しかし、この世に生を受けたものは必ず終末を迎えなければならないこともまた事実です。そこで、終末期の医療を受ける側にも自身のターミナルの尊厳を主張する意識が高まり、いわゆるチューブ人間やスパゲティー症候群といわれる姿にだけはしないでほしい、との希望も多くなってきました。私も全く同感で、10数年前に種々調べ「Living Will(生きている本人の遺言書=生前発効の遺言書)」を作成しておけばよいということを知りました。

わが国では1976年に医師の太田典礼氏を中心として医師、法律家、学者、政治家が積極的に加わり、日本尊厳死協会が設立されました。私の持っているカードの裏面には私の傷病が不治であり、かつ死が迫っていたり、

生命維持装置無しでは生存できない状態に陥った場合に備えて、私の家族、縁者ならびに私の医療に携わる方々に次の要望を宣言致します。この宣言書は、私の精神が健全な状態にある時に書いたものであります。

- 1) 私の傷病が現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命治療はお断りいたします。
- 2) ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。
- 3) 私が回復不能な遷延性意識障害に陥った場合は生命維持装置をとりやめてください。(一部省略)

以上、私の要望を忠実に果たして下さった方々に深く感謝申し上げますとともに、一切の責任は、私自身にあることを付記します。

と書かれています。死生観は人によりそれぞれ異なりますが、上記のように望まれる方は必ず文書にして、近親者に託しておかれるのがよいでしょう。

世界でも一二を競う長寿国であるが故に、自身の終末を穏やかに、そしてさわやかに過ごせればと思います。

最後になりましたが、関西医科大学の益々の発展と同窓会、加多乃会の活発な活動を願っております。

関西医科大学同窓会創立80周年 財団法人「加多乃会」設立40周年

記念祝賀会のお知らせ

今年に関西医大におきまして同窓会創立80周年、(財)加多乃会設立40年の節目の年であり、11月3日(日)に記念祝賀会を開催します。

1928年“高貴な方々のお狩場”であった交野が原に、大阪女子高等医学専門学校として産声を上げ80余年が経ちました。戦前、戦後の苦難の時代を経て現在に至る先人達の母校愛が、今日の関西医科大学を創りあげてきたこととなります。そして、その集大成として、本年4月に附属枚方病院の隣にはほぼ同規模の学舎、研究棟が完成しました。今までは滝井、牧野に分散していた教育・研究機能がこの“枚方の地”に統合され、夢にまで見た理想的な学園が誕生しました。

また、この新学舎の最上階に同窓会・加多乃会事務局も移転し、活動を始めています。祝賀会当日の朝に施設見学会が予定されておりますので、ぜひ皆様ご自身の目で新学舎をご覧いただき、祝賀会に参加していただければと思います。さらに翌日の4日(振替休日)には「枚方カントリー倶楽部」にて「記念親睦ゴルフコンペ」も開催されますので、併せてご参加ください。

地域の同窓の先生方や級友とお誘い合わせの上、多数の方々のご参加を楽しみにしております。

◆枚方新学舎施設見学会

日時：11月3日(祝日・文化の日)
午前9時30分
集合：枚方新学舎前
(京阪電車枚方市駅下車)
※玄関にて係の者がお待ちしております。

◆記念式典 講演会・祝賀会

日時：11月3日(日・文化の日)
午前11時30分
場所：リーガロイヤルホテル
(大阪市北区中之島)
「山楽の間」
TEL06-6448-1121
会費：3万円

◆記念親睦ゴルフコンペ

日時：11月4日(月・振替休日)
午前8時スタート
集合：枚方カントリー倶楽部
(枚方市杉江町)
TEL 072-858-8331
※会費等の詳細は、参加希望者に後日ご連絡いたします。

お申込み・お問合せ：記念祝賀会準備委員会事務局 電話072-804-2171まで

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成25年1月1日～3月31日 *判明分のみ 教育の職位は3月31日時点)

友田幸一教授 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)	テレビ大阪 「ニュースBIZ」 1月10日(木) 午後5時13分～30分	「可能性広がる骨伝導」という特集で、ゴールデンダンス社と共同で開発を進める骨導補聴器に関する内容が放送されました。
朝子幹也講師 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)	産経新聞 1月13日(日)	医療シンポジウム「花粉症あきらめない専門医に聞く花粉症の最新情報と正しい対策」で「花粉症治療の実際―薬の選び方から最新の治療まで―」をテーマに講演した朝子講師の講演内容が掲載されました。
高橋寛二教授 (眼科学講座)	毎日新聞 1月21日(月)夕刊	医療シンポジウム「目の病気、加齢黄斑変性を知る」(12月13日開催)で講演した、治療法や予防面の留意点などに関する内容が掲載されました。
山下敏夫理事長・学長	毎日新聞 1月31日(月)夕刊	山下学長再任の記事が掲載されました。
関西医科大学	朝日新聞 2月1日(金)	「私大医学部の学費値下げ」をテーマにした特集で、本学の学費値下げや、東京会場やセンター利用の入試を実施したことに関する記事が掲載されました。
三島伸介助教 (内科学第一講座)	関西テレビ 「スーパーニュースアンカー」 2月14日(木) 午後4時48分～7時	「ダニ媒介感染症」の症状や対策について話しました。
上野博夫教授 (病理学第一講座)	産経新聞 2月19日(火)	東京大学教授らのチームの研究成果の「ブタ体内で臍臓再生「iPS細胞から臓器」前進」という見出しの記事で、上野教授のコメントが掲載されました。
長谷公隆診療教授 (整形外科科学講座)	NHKEテレ 「ここが聞きたい!名医にQ」 2月23日(土) 午後8時～45分	首のトラブルによる様々な症状や治療などに関する質問について回答しました。
権雅憲教授 海堀昌樹講師 (外科学講座)	日経産業新聞 2月25日(月)	立命館大学と共同で開発した「病気を患った肝臓を3次元画像にほぼ自動で変換し、手術シュミレーション(模擬実験)できるシステム」に関する記事が掲載されました。
松田公志教授 (腎泌尿器外科学講座)	ABCテレビ 「キャスト」 3月5日(火) 午後5時30分～40分	「男性の更年期障害について」がテーマで、症状の特徴や予防法などについて解説しました。
朝子幹也講師 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)	毎日放送 「VOICE」 3月6日(水) 午後6時15分～55分	「PM2.5が黄砂や花粉症に及ぼす影響について」をテーマにした番組のコーナーに出演し、人体に及ぼす悪影響や備えの方法などについて解説しました。
関西医科大学	日本経済新聞 3月7日(木)	「私立大学医・歯学部の学費値下げ」をテーマにした記事で、2013年度から学費を値下げした本学が取り上げられました。
朝子幹也講師 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)	関西テレビ 「スーパーニュースアンカー」 3月8日(金) 午後4時49分～55分頃	「PM2.5の対処法」をテーマにした特集で、予防対策などについて解説しました。
關壽人診療教授 (内科学第三講座)	毎日新聞 3月15日(金)夕刊	大腸がんに関する症状や予防法について、コメントが掲載されました。
関西医科大学	読売新聞 3月23日(土)夕刊	本学枚方新学舎竣工式開催の記事が掲載され、新学舎の概要などが紹介されました。
関西医科大学	読売新聞 3月25日(月)	牧野キャンパス大講堂に掲げられている天井画が3月30日に一般公開されるという告知が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではございません。

お知らせ

枚方学舎について

■枚方学舎の住所、アクセス

住所：〒573-1010

大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-0101(代表)

アクセス：京阪電車「枚方市駅」東改札口から徒歩約3分

※東改札口をご利用いただくのが便利です。

■詳細はWebサイトをご覧ください

枚方学舎に関する詳しい情報は、関西医科大学Webサイト内の「枚方新キャンパス」のページに掲載していますので、ご覧ください。

URL：http://www.kmu.ac.jp/general_info/hirakatagakusya.html

枚方学舎3階に歴史資料室がリニューアルオープン

枚方学舎の3階に歴史資料室がリニューアルオープンしました。新しい歴史資料室は、85年に及ぶ本学の歴史と伝統を節目ごとに区分し、その時代の貴重な資料を展示しています。本学の永い歴史に触れることは、改めて関西医大人であることを再認識させてくれるでしょう。見学手続きはございませんので、是非、お立ち寄りください。

また、室内では販売品であるオリジナルグッズも展示していますので、ご希望の方は学舎1階大学事務室内の総務部庶務課(内線2112)でご購入ください。

- 場所：枚方学舎中央棟3階 附属図書館前
- 開室日：月曜日～金曜日(日祝日、休日を除く)
- 開室時間：午前9時30分～午後4時30分



編集後記

枚方学舎正門の上部には2羽のフクロウが止まっています。といっても、これは石像なのですが、あの眼光鋭い大きな目で玄関口から学園を見守ってくれています。フクロウは「知のシンボル」とされる一方、首を回して360度見渡せることから、視野が広く先見性がある見渡しが効くことから守り神ともいわれます。学生も安心して学べることでしょ。

本学の教育理念は「建学の精神に則り、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野をもつ人間性豊かな良医を育成すること」で、広い視野は医学生にとって大切な力です。学生の皆さん、知を磨き、フクロウのような視点を身につけてください。(起)

関西医科大学広報 Vol.21

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp>

E-mail kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成25年4月25日(木)発行